

# 倉敷地域等新設特別支援学校整備基本計画の概要

岡山県教育委員会

## 1 基本方針

### ①総合的な観点での基本方針

#### 1) WELコラボ(福祉: Welfare+教育: Education+労働: Labor)

・一人一人の教育的ニーズに対応した教育や卒業後を見据えて福祉や労働と連携する学校体制を構築する。

#### 2) 地域との連携・地域への貢献

・地域での学習活動や就業体験など地域と密着した教育活動を行うとともに、地域への学校開放や地域貢献を行う。

#### 3) 障害部門を超えた共同での学習

・知的障害部門、肢体不自由部門の枠を超えた共同での学習を実施する。

#### 4) キャリア教育の充実

・知的障害部門高等部に職業コースを設置し、職業教育に重点をおいた教育課程を編成する。

#### 5) 速やかな整備

・県南部の知的障害特別支援学校の児童生徒が増加し、教室不足が生じているため、可及的速やかに新設校を整備する。

#### 6) 関係者の意見を十分に反映した設計

・関係市町教育委員会や特別支援学校長会等の意見や要望を聞き、経済性、機能性等の観点から実現可能な事項は可能な限り反映する。

### ②校舎整備面の基本方針

#### 1) 障害のある児童生徒に配慮したユニバーサルデザイン

・ユニバーサルデザインを基本とし、障害や教育的ニーズに対応したきめ細かな設計とする。

#### 2) 自然エネルギーの活用等

・自然エネルギーを有効活用する。また、断熱性を高め、省エネ機器を採用する等、省エネ化、省資源化を図り、自然や環境問題を学び体験するエコスクールを目指す。

#### 3) 県産材の積極的活用

・今年度中に策定される「岡山県内の公共建築物における県産材等の利用促進に関する方針」に基づき「木造化」「内装等の木質化」を進め、県産材の積極的活用を図る。

#### 4) 児童生徒数の増加等に応じて柔軟な対応が可能な設計

・将来、児童生徒数が増加した場合や新たな施設整備が必要になった場合など、容易に増改築が可能な施設構成、施設配置とする。

### ③整備手法及び管理運営面の基本方針

#### 1) 整備手法の検討

・国の補助金を前提とした公設公営とする。

#### 2) 費用対効果が期待できる業務の民間委託の検討

・民間委託により、サービス水準を維持しながらコスト縮減が期待できる業務については、民間委託方式も検討する。

### 3) 児童生徒の利便性を確保した通学手段の検討

- ・児童生徒の通学の利便性を考慮し、スクールバスの経路や便数について検討する。なお、高等部は自力通学を原則とする。

## 2 学級編制計画等

### (1) 通学区域の設定

#### ① 知的障害部門

岡山市西部(ももぞの学園)、倉敷市北部・西部、総社市、高梁市、吉備中央町(旧賀陽町)

#### ② 肢体不自由部門

倉敷市北部・西部、総社市、高梁市、吉備中央町(旧賀陽町)

### (2) 児童生徒数の推計 (H26年度) (人)

	小学部	中学部	高等部	計
知的障害部門	60	70	100	230
肢体不自由部門	10	10	10	30
計	70	80	110	260

## 3 施設基本計画

### (1) 学校敷地等

- ・計画地は、倉敷市真備町箭田地内で、学校敷地面積は約3万㎡である。
- ・校舎全体の延べ床面積は、約1万3千㎡とする。

### (2) 施設計画

#### ① 施設配置計画の基本的な考え方

- ・各部門(知的障害部門・肢体不自由部門)の独自性を確保する。
- ・児童生徒の特性を踏まえ、校舎はできる限り低層の建物とする。
- ・建物相互間において日照、通風を妨げない必要な隣棟間隔を確保し、交流空間としての中庭等、校舎周りの野外空間を積極的に取り入れた構成とする。

## 4 管理運営計画

### (1) 基本方針

- ① 学校運営の自主性をふまえた施設運営
- ② 公的主体による教育に関する管理運営
- ③ 費用対効果が期待できる業務の民間委託の検討

### (2) 管理運営経費 約1億4千万円(年)

## 5 事業化計画

### (1) 建物建設費 約40億円

### (2) 整備スケジュール

年度	スケジュール事項
23	基本設計・実施設計
24	新築工事着工
25	開校準備室設置、工事竣工、新設校条例設置
26	開校